

「自分たちの地域は自分たちで守る！」 新たな自治組織による“近代的いなか社会”づくり

仁保地域では、自治会や農協、社会福祉協議会など、地域づくりに関わるあらゆる団体・グループが代表者を通して参画し、村づくりの重要事項の決定を行う「仁保地域開発協議会」が昭和45年に発足した。以来、社会の急速な変容のさなか、独自の理念と組織論によって実施されてきた主体的地域づくりは、これからの地域自治の模範となりうるものである。



背景と課題

深刻な過疎化の波と、47.7豪雨の悲劇

仁保地域は、山口市南東部に位置し、山に囲まれた地域であるものの稲作を主とした農村である。地域の中央を仁保川が流れ、田園地帯が広がる。昭和30年、仁保村を含む3つの村が合併し大内町となり、さらに昭和38年に山口市に編入された。

昭和40年頃からの深刻な過疎化に対して、仁保地区では自治会をはじめ、農協、婦人会等のあらゆる団体が、共通の場をもって村づくりを進められるように「仁保地域開発協議会」を結成。山口大学の協力で、「仁保むらづくり基本構想」をまとめた。

さらに昭和47年7月、村を記録的な集中豪雨が襲い、大水害に見舞われた。この復旧活動をきっかけに、「自分たちの地域は自分たちで守らなければ」という強い住民意識が芽生えた。



取組のきっかけ

ワンストップサービスの実現

昭和38年の合併後、山口市は市道の整備を地域の総意に委ねる方式をとった。仁保の協議会で出された結論は、「一番辺りな山間の路線を優先して整備する」というものであった。その結果、過疎の深刻な辺地の人々の生活基盤が守られ、地域全体の過疎化に対する大きな歯止めとなった。

一方で自治会は、町の中心であり、幹線道路の結節点になる場所に行政サービスや生活機能を集約させる「ワンストップサービス」の構想を立て、住民自らが用地の確保を行った上で、市に談判。平成12年に道の駅「仁保の郷」が開設され、自治会自らが管理・運営することとなった。

住民が、「自分たちの店だ」という意識をもって運営されるこの道の駅が、仁保の人たちの誇りの拠りどころとなっている。

仁保地域開発協議会

所在地：〒753-0302

山口県山口市仁保

中郷1034

(道の駅 仁保の郷)

連絡先：083-929-0480

FAX：083-929-0482

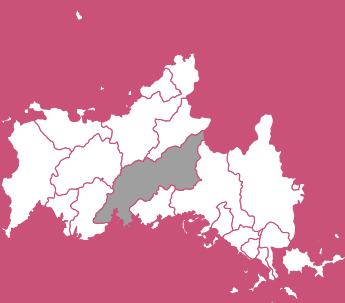
山口県山口市

総人口：187,420人

高齢化率：22.3%

世帯数：78,534世帯

総面積：730.23 km²





取組と成果

仁保方式による公共整備とワンストップサービスの運営

取組 1

道の駅「仁保の郷」の開設

道の駅「仁保の郷」は、交通の結節点として従来から行政サービスが集積していた地区の中心部に、平成12年に開設された。1万台／日の交通量がないと経営的に難しいといわれる道の駅を、自治会が市に直談判し、その熱意によって3,500台／日の道路沿いで実現した。施設整備は市が行ったが、管理・運営にあたっては、自治会を中心に、農協、森林組合等の地域組織からなる運営会社「(有)仁保の郷」を設立し行っている。

取組 2

集落全員の手による取組

道の駅のオープン以来、多くの地元住民が、ボランティアで道の駅周辺の草抜きや植木の手入れ、トイレ掃除等をしてきている。また、集落全員で菊を栽培し、一鉢ずつ道の駅に飾る「菊の一鉢運動」を実施。以来毎年秋のシーズンには約1,000株の菊が道の駅を彩るなど、地域をあげて道の駅の運営に携わる取組を続けている。

取組 3

少量多品目の生産販売

各家庭のちょっとした産品を売れる市場が欲しいという声が上がったことから、住民がめいめい何でも持ち寄って自由に格安販売する「いんどり市」を開設、道の駅の一部で開催している。

さらに、加工した方が売りやすいという声から、加工組合を立ち上げて、共同の加工場を設置した。

成果

ワンストップサービスとしての道の駅の実現

完成後、道の駅周辺に郵便局や農協の店舗、済生会病院ケアセンター、地域交流センターも整備され、地域の生活拠点としての構想が実現した。また、道の駅の2階には、研修室があり、様々な地域活動に活用されるなど、地域で支えあう活動拠点として活用されている。

初年度から黒字を計上

経営診断士に「最初の3年は赤字」と診断された道の駅だが、地元産品の販売など魅力ある駅づくりの効果もあり初年度から黒字を計上した。平成20年度の入込客数は、延べ約70万人（うち約9割が県内客）と、ちょっとした観光地並みの集客を記録した。



「菊の一鉢運動」の展開

道の駅オープンに際しての「菊の一鉢運動」は、ささやかながら地域住民が自分たちの店だという意識を共有するきっかけとなり、以後、秋になると道の駅を華やかに飾っている。

また、この活動が広く反響を呼び、平成18年、山口市の商工会議所から、国民文化祭の会場に飾る2,500鉢の菊の提供依頼を受けた。さらに翌年の徳島での国民文化祭、平成20年の山口市の商店街イベントにも菊を提供し、仁保地域の活動が広く知れ渡った。

